

# カルメル 霊性センターニュース



宇治カルメル会修道院 聖母子像

2020年3月

362号



## 【教会からの言葉】

「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ12章21節)

## 『喜びに喜べ』から

### 「第5章 闘い、警戒、識別」(158-165)

キリスト者の生活は、絶えざる闘いです。悪魔の誘惑に抗い福音を告げるための、強さと勇気がもとめられています。この戦いは実に素晴らしいものです。主がわたしたちの生活の中で勝利を収めるたびに、わたしたちは喜び祝うことができるからです。(158)

### 「ただの神話ではない」

超自然的感覚を持たずに経験による基準だけで人生を見ることにこだわれば、サタンの存在は認められないでしょう。…事実、イエスは主の祈りを教えてくださった際に、悪魔からの解放を御父に願ってこれを締めくくるよう望まれました。主の祈りの中で使われている表現は、抽象的に悪いものを指しているのではなく、より厳密な訳でいえば「悪魔」です。それは、わたしたちを執拗に苦しめている、人格を有した存在です。(160)

ですから、その存在を神話だとか、一種の表現とか、記号、象徴、あるいは観念だなどと考えるはなりません。そうした思い違いは、わたしたちの警備を弱体化させ、油断させ、無防備にさせます。悪魔には、わたしたちに取りつく必要はありません。憎しみ、悲しみ、嫉妬心、悪行で毒していくのです。そうして次に警戒の緩みを、わたしたちの生活、家庭、共同体を壊すのに利用します。「ほえたける獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回って」(1ペトロ5・8) いるのです。(161)

## 目次

教会からの巻頭の言葉	1
目次	2
心の泉	3
カルメル会の企画案内	25
カルメル会四旬節講話シリーズ	26
東京	27
京都	31
北陸	32
諸所の企画案内	33
郵送お申込みのご案内	40
あとがき	41

# 心の泉



宇治カルメル会修道院 南門



### 第三卷

## 第二十六章 地上のわずらいから解き放たれた靈魂の気高さは、 学問よりも謙虚な祈りによって得られる

### 1 子

《主よ、天にあることから、つねに心を離さず、冷淡のためではなく、被造物への執着を捨てた自由な心をもつ人の特権によって、いろいろなわずらわしさのなかにあってもそれに束縛されないことは、すでに完徳を有する人の業です。》

### 2 心の自由を願う祈り

《ああ、慈悲深い神よ、私をこの世のわずらいから保護してください。私の心がそれに縛られないように。体に必要なことから解き放ち、快樂におぼれないようにしてください。また靈魂のさまたげとなるすべてのことによって、私とその不幸に打ちひしがれて失望しないように守ってください。私がそれを乞い求めるのは、世間の人々が望む空しい事柄だけではありません。人類が受けた呪いの結果、あなたのしもべの心に罰として圧迫し、望む時に靈魂の完全な自由をさまたげる不幸からも解き放ってください。》

ああ、私の神よ、言い尽くしがたい甘美なお方よ、永遠のものへの愛から私を遠ざけ、現世の楽しみをもって私を悪に誘う肉体的な慰めを、すべて苦しみに変えてください。私の神よ、肉と血とを靈に勝たせないでください。世間とその一時の光栄に、私があざむかれるのをゆるさないでください。悪魔がその狡猾さによって、私を罠にかけるとゆるさないでください。むしろそれに対抗する力と忍耐と根気とをお与えください。この世のすべての慰めの代わりに、あなたの聖靈の無上の喜びをそそぎ、肉の愛の代わりに、あなたのみ名への愛をお与えください。

食べる、飲む、着る、体を保つために必要なことは、神に熱心な人にとっては重荷です。これらのことにあまり執着しないで、それを節制して用いることを私に教えてください。すべてを捨て去るわけにはゆかず、体も保たねばならないからです。しかし、不必要なこと、感覚的なことを求めるのは、聖なる掟によって禁じられています。そうしなければ、肉体はすぐに靈に逆らってしまいます。この二つの間にみ手を伸べて、私がどちらか極端に走らないように支え、守ってください。》

## 2020-3 キリストの歩まれた道を聖母マリアとともに



この世において苦しみ絶えることはありません。時と場所を超えて、苦しみ原因、様相は違っても。しかし、苦しみをどのように耐えて生き抜くかは、人によって違います。苦しみを知る人は、安易に他者の苦しみを慰めることはないでしょう。

神のみことばキリストは「永遠の今」のうちに苦しみを生き、わたしたち一人ひとりの苦しみを覚えておられました。

「十字架にかけられた方の近くにとどまっているだけで、あなたの苦しみは最高の祈りです。」～三位一体のエリザベット～ \*

苦しんでいるときのあなたの避難所は母の心、聖母の心です。あらゆる心の痛手や悲痛な思いを知っておられても、聖母の心はいつも穏やかで強かったのです。その心は変わることなく

キリストの心にゆだねられていましたから。 \*



聖母は強く、雄々しく十字架の下に立っておられます。

「見なさい、あなたの母を」と主はわたしに言われ、  
聖マリアを母としてわたしに与えてくださいます。  
主がおん父のもとに戻られた今、  
「キリストの体である教会のために、  
主の苦しみの欠けたところを補うために・・・」



ご自分の代わりにわたしを十字架の上に置かれます  
その時、聖母はなおも十字架のもとに留まって、  
御子のように苦しむことをわたしに教えられます。  
そして聖母のほか誰も聞くとることのできなかつた  
主の魂の最後の歌を、  
わたしに聞かせようと望まれます。 \*

残り少なくなりました四旬節の日々を  
聖母マリアとともに過されますように。

伊従 信子 (いより のぶこ)

\* 『いのちの泉のほとりにて』三位一体のエリザベット、  
ドン・ボスコ社、2017 伊従信子編訳

## 創造主への賛美 (29)

くのり 彰  
九里 彰

仏教では、無明から貪瞋痴という三惑（三毒）が生じてくる。いわゆる煩惱であるが、煩惱の数は除夜の鐘の百八どころではなく、分類によっては八万四千ともなる。メタンガスのように噴き出してくる煩惱の基本形は、むさぼり、怒り、愚かさである。

「むさぼり」というと餓鬼のように食べられるものなら何でも食らいつくあさましい姿を連想するが、眼耳鼻舌身意という六根（五官と心）全般に絶えず生じている状態と思われる。なぜなら体や心に快く楽しいものに、私たちは簡単に引きつけられてしまうからである。マニャックな状態はごくふつうにみられる現象だが、アルコール依存や薬物依存などの中毒症状は、そのような囚われ状態の最たるものであろう。

話をカインとアベルの話に戻すと、カインは神に対して「怒り」を燃やし、弟に対して激しく「嫉妬」し、その弟をこの世から排除するために、人類初の殺人という「愚かさ」の罪を犯すのである。

「愚かさ」は無知とも言えるが、やっではいけないと分かっている、やってしまうのが、人間の「愚かさ」であろうから、単なる無知とも言えない。カインのように、心の中で「怒り」や「嫉妬」の炎が燃え上がると、ブレーキのきかなくなった車のようにそのまま突き進むのである。

そのような激情に駆られない場合としては、心にぽっかり穴が空いた状態、虚しさや寂しさが考えられる。それらをまぎらすため、心を満たしてくれるものに、病的に依存してしまうのである。体に良くないと、いくら説教されても、やめる人はまずいないだろう。

ところで、なぜ人は「嫉妬」するのであろうか。カインは、神がアベルの献げ物には目を留められ、自分の献げ物には目を留められなかったことに、激しく怒る。これは、三惑で言えば、「むさぼり」の一種ではなかろうか。彼は、弟の献げものが自分の献げものより注目されることに耐えられなかったのである。優劣の意識から、自分は低く評価されたと思いこみ、その評価に怒り、劣等感に捕われるのである。それは、自分一人神に嘉され、寵愛されたいという自己中心的な思いが生じているからであろう。神の愛を独占したいという欲望である。

そこにはカインの早とちりとも言えるべき誤解（「愚かさ」）があるかもしれない。神は彼の「献げ物」に目を留められなかっただけであって、彼の「存在そのもの」を無視されたわけではないからである。そうでなければ、怒っている彼に、神は声をかけられなかったであろう。ところが、彼は自分自身の存在が無視されたと取ったのである。（続く）



## 十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (144)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

### 「自然と十字架のヨハネの関係」(6)

私たちが引用した 3S24, 4——これはさまざまなエコロジカルな宣言のロンダを引き起こしましたが——のテキストに、他の箇所は反論しているようにも思われます。何よりもまず、それらの文脈を再構成するのが適当でしょう。

十字架のヨハネは、「よい動機」と呼んでいるものについて話し始めます。なぜなら彼の使命は、人々の敬虔な感情を引き起こし、神へと導くことだからです。こうして、聖画像に順番がやってきます。これにエラスムス主義の宮廷に関する三つの味わい深い章が捧げられています (3Sc. 35-37 参照)。それまでと同じスタイルで、礼拝所や祈りのための場所というテーマ (3Sc. 38 参照) をチェックします。その次の章で、「どのように霊を神へと向かわせるように礼拝所や聖堂を使うべきか」というテーマに取り組んでいます (3Sc. 39 参照)。

何よりもまず、霊的生活における初心者をもどのように導くべきか、偉大な教育学を説いています。「初心者には、心を神に向けるため、聖画像とか礼拝所とか、目に触れる敬虔な事物に、いくぶん感覚的な好みや糧をもたせておくことは許されることであり、またさらにその方が良い」(同 1)。結局、彼らはそのような祈りのための支えを必要としているのです。けれども、祈りにおいて、また人生においてさらに前進するには、これらの手段を克服し、自分を乗り越えていかねばなりません。子供の世界から取られた例をもって、彼の考えを説明しています。あなたは子供の手にあるものを取り上げたいのですか。彼がもっと好きな他の物を差し出さない。そうすれば、この新しい対象物によって、「手を空に」(同 1) させられることによって泣いて抗議されることなく、それを手にすることができるでしょう。

サマリアの女との対話 (ヨハ 4, 23-24) から、結論としていくつかの考えを引き出そうとしています。

- a) 真の祈りは、「山や神殿に付属するものではない」。
- b) 「神殿や静かな場所は、祈りに捧げられ、またそれにふさわしい所ではあるけれども、…祈りという神との間になされる非常に重要で内的交わりのためには、感覚がひきずられたり、働かされたりしないようなところを選ぶべきである」。

## A年 四旬節 第1主日

(マタイ4：1-11)

灰の水曜日から四旬節が始まります。四旬節は、ご復活のお祝いに向けて準備する期間です。イエスは、40日間、荒れ野で祈り、断食し、悪魔の試みを退けました。私たちも40日間荒れ野で過ごしたイエスにならい、祈り、断食、施しを通じて、試みと自分の罪深さを乗り越える努力をするようにと招かれています。

福音書によると、イエスは、霊に導かれて荒れ野に行かれました。そして40日にわたって孤独と沈黙のうちに断食し、祈りを捧げました。するとサタンから試みを受けられました。イエスは祈りと断食によって公生活を始める準備をしていましたが、空腹を覚えられた時、サタンから3度試みを受けました。

イエスすら、試みから免れることができませんでした。この試みとは、イエスの生涯における現実の試金石であり、具体的には、権力、プライド、そして栄光に関するものでした。最初の試みは、基本的な物質的欲求である空腹を満たすために奇跡を行えばよい、という内容でした。2つ目の試みでは、一同を圧倒して疑いもなく信じさせるほどの偉大なしるしを見せつけるために神の力を利用すればよい、というプライドに直結することを誘惑されます。そして3つ目の試みでは、この世に神の国を建設してゆるぎない栄光を手にするために神の力を使えばよい、とそそのかされました。これら3つの試みはすべて、イエスが天の御父から与えられた召命と使命に逆らうためにサタンが用いた安直な手段です。イエスは世を救う救い主です。主には、ご受難と十字架と死を通して世界と人類を救うという使命がありました。そして御父からの使命を果たすために、イエスは霊の導きを受け、力と勇気をもたらうために荒れ野に赴きました。サタンは、たやすく見える「近道」を教えますが、イエスはサタンの示す道をたどらず、御父の道にいつも忠実なお方です。

四旬節の間、私たちは自分の生活を省み、罪を悔い改めて必要な償いをするようにと教会から呼びかけられています。祈り、断食、償いによって、試みと自分の罪深さに打ち勝つために必要な力が与えられます。「人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言葉によって生きる」というイエスのみ言葉が、四旬節を過ごす私たちの力となりますように。

(Sr. Paulina)

## 四旬節 第2主日

(マタイ 17:1-9)

ペトロ、ヤコブ、ヨハネは、イエスの栄光の姿を垣間見る恵みを受けました。「イエスの姿が彼らの目の前で変わり、顔は太陽のように輝き、服は光のように白くなった。」

彼らは「光り輝く雲」に覆われ、神の声を聞きました。

「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者。これに聞け。」

ペトロ、ヤコブ、ヨハネは、しばしば特別に連れ出され、イエスの神秘を身近に体験する恵みにあずかります（他にマルコ 5・37、14・33 など）。この場面で、神は、彼らに、イエスが神の愛する子であり、復活の栄光に向かって受難を受けること。また、モーセとエリヤに代表される律法と預言を成就する方であることが告げ知らされます。だからこそ、イエスに「聞け」と命じられました。「聞く」とは「聞き従う」という意味です。

この神秘的な出来事が、三人に示されたのは、いうまでもなく、他の人々に告げ知らせるためです。のちに、イエスこそキリストであることを力強く述べ伝えるために、彼らは特別な体験に招かれたのです。

さて、この福音を聞き、四旬節第2主日にミサにあずかる私たちも、ペトロ、ヤコブ、ヨハネのように、特別に呼び出され、イエスの神秘を体験する恵みに招かれます。イエスは十字架の道を歩みましたが、復活の栄光に到達しました。その栄光を記念するミサの中で、秘跡をとおして、私たちはイエスの神秘にあずかります。ミサにおける福音朗読は父からの声です。

イエスが近づき、彼らに手を触れ、「恐れることはない」と言われたとき、光り輝く雲は消え失せ、モーセとエリヤもいなくなり、イエスだけが彼らと共におられました。神秘は消え失せ、現実の中を共に歩まれるイエスだけがそばにいたのです。

私たちがミサで体験する神秘も、「行きましょう、主の平和のうちに」という呼びかけで終わります。快いミサの雰囲気から、現実へと連れ戻されます。しかし、イエスは私たちの現実の中を共に歩んでくださるのです。聖体をとおして私たちの心に来てくれたイエスは、私たちの実生活の中で歩まれます。

「これに聞け」と言われた父の声を思い起こしながら、私たちはイエスに聞き従う救いの道を歩むのです。私たちも、イエスこそキリストである、と人々に告げ知らせる福音宣教者になっていきましょう。十字架の道こそ、復活の栄光に達する救いの道であることを証できますように。

(今泉健 神父)

## 四旬節 第3主日 (A)

(ヨハネ4 : 5 - 45)

本日は、四旬節第3主日です。この日の聖書朗読の重要なテーマは、「水」です。水は大変貴重なもので、「命を与えるもの」です。聖書の中で「生きている水」は、生命を与える神のイメージを象徴しています。ユダヤ人にとって水という言葉は、霊的な意味で使われました。これは神への魂の渇きを意味しています。

本日の福音の中で、イエス様とサマリアの女性との井戸での出会いは、「水を飲ませてください」という主イエスの求めから始まりました。正午頃のことで、イエス様はのどが渇いておられました。実のところ、ユダヤ人とサマリア人は交際しませんでしたし、男の人が公の場所で女の人に話しかけることはありませんでした。ですから、水を飲ませてほしいと頼むようなことは、社会的に受け入れられないことで、サマリアの女はそれをイエス様に気づかせなければなりません。しかし、イエス様は世界の救い主です。イエス様は民族の壁や、宗教的偏見はありません。性的壁もありません。恥や罪、善と悪、罪人か聖人の壁もありません。イエス様はサマリアの女に水を飲ませてほしいと頼みます。それは暑い午後のことで、イエス様はのどが渇いていたに違いありません。しかし、身体的な渇きより以上に、イエス様はより深い渇きを持っていました。イエス様の真の渇きは、その女性の救いとその人の信仰にありました。

イエス様とその言葉に全面的な信頼をおいたサマリアの女についての聖書の言葉から、イエス様を信頼し、信じた人は変わり、別の人になり、「新しい創造物」となることを学びます。サマリアの女はイエス様と出会った後、自分の全てを神に捧げます。自分の人生に新しい意味を見出し、他者にキリストのメッセージを伝える真の証人となります。

四旬節の間、私たちは主と出会うように呼ばれています。主との会話で新しい人生を見出します。福音により、井戸のところでイエス様はサマリアの女と出会ったことを知りました。イエス様はどこでも出会うように私たちを待っておられます。イエス様はありのままの私たちを愛してくださっていますから、私たちを探すのに疲れることはありません。これが救いの良い知らせです。キリストは「生きている水」の源泉です。キリストとの繋がりは、「生命の充満」を意味しています。

(Sr. Paulina)

## 四旬節 第4主日

(ヨハネ 9 : 1 - 41)

今日の福音は「生まれつきの盲人をいやす」話です。盲人は単に癒されただけでなく、徐々に神を信じる信仰へ導かれてゆきます。それに対し盲人と関わったユダヤ人たち、ファリサイ派の人々の頑なさ、罪といったものが明らかになってゆきます。

イエスが通りすがりに見かけられた「生まれつき目の見えない人」が登場しますが、当時のユダヤにおいては、病気とは罪を犯した結果…そのように考えられていました。このことは弟子がイエスに「この人が生まれつき目が見えないのは、だれが罪を犯したからですか。本人ですか。それとも両親ですか。」と尋ねていることから解るでしょう。ですのでその盲人が癒されたということは、人々にとって非常に驚くべきことでした。

ユダヤ人たちは、この人が盲人であったのに、目が見えるようになったということ信じませんでした。両親も癒された人が、自分達の息子で生まれつき目が見えなかったことを彼らに話しますが、そのことも彼らの理解のために、功を奏しなかったのです。

イエスが罪ある人間だと知っている。癒された人は、全く罪の中に生まれたと言い、「罪」にのみ目がいってしまい、そこに神の力が働いている、恵みがあるという現実を目を向けること、気づくことはできませんでした。

これに対して、イエスに癒された生まれつき目が見えなかった人は、自分におこった出来事を基に、徐々に神への信仰へと開かれてゆきます。自分を癒して下さったお方は「イエスという方」と名前しか知らなかった彼ですが、ユダヤ人との対話で「預言者」、そして「神のもとから来られた(方)」、さらには再び出会ったイエスとの対話を通して「人の子」を信じる者へと変えられてゆき、イエスに向かって「主よ、信じます」と、告白するまでに至ります。

「罪」にのみ目を注ぎ、他人の罪を詮索し、糾弾することに汲々とするのではなく、私たちは自分のうちに、また他の人のうちに働かれる神の力を見つめ、感じ、受け止め、神を信じる者へ変えられますように。私たちが癒すために遣わされたイエスを受け入れ、「主よ、信じます」と力強く信仰を告白する者となりますように。

(Fr. 古川利雅)

## A年 四旬節 第5主日

(ヨハネ11：1-45)

「私は復活であり、命である。私を信じる者は、死んでも生きる。生きていて私を信じる者は誰も、決して死ぬことはない」

四旬節第5主日の福音は、死者の中からよみがえったラザロのお話です。ラザロのよみがえりは、イエスの死と復活の前触れです。イエスこそ、私たちの復活であり、いのちです。

ベタニアを舞台に、イエスは、ラザロを奇跡的によみがえらせ、家族と再会させます。ラザロは、死の暗闇から解放され、新しいいのちの真のしるしとしてよみがえりました。私たちが主の奇跡に信頼し、復活でありいのちである主を信じて自分たちの肉体もいつか主とともに新しいいのちによみがえるという信仰を持つことができるよう、イエスは、この奇跡を通して、死を超越するご自分の力を示されました。これは、イエスを信じる者は誰でも永遠に生きるという生き生きとした希望への招きです。イエスは、ラザロをよみがえらせることで、神の御子と人類の救い主として神の力と権能を現わされました。

死は、神秘に包まれています。意識しているかいないかに関係なく、私たちは毎日死に直面し、毎分毎分、少しずつ死んでいきます。そして自分のいのちが無限ではなく、必ず死が訪れると気づきます。キリスト者は、キリストに従う者ですが、死をおそれる必要はありません。なぜならイエスは、永遠に死に打ち勝ったからです。「私を信じる者は決して死ぬことはない」というみ言葉どおりです。そのため、復活とは、時の終わりに実現するものではありません。復活そのものであるイエスを信じる者は、新しく創造されたものとして既に復活しているのです。死からいのちに移ることは信仰に基づいています。神を愛し、また神への愛のためにイエスの霊のうちに生きながら、私たちは、「豊かないのち」であるキリストのうちに永遠のいのちを前もって味わっています。

*(Sr. Paulina)*

## 糸巻き棒からペンへ(51)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

真理への愛は、文化（教養）への尊敬と結びついています。それゆえ、テレジアは、修道女たちが養成（教育）されることを望みます。彼女は「愚かな女性たちの敬虔さ」の敵です。そこで、堅固な土台の上に霊的生活を築くよう、修道女たちを招きます。このために、教会や面会室で修道女たちに良い話ができる、彼女が出会った最善の説教者を呼びます。修院長も、修道院の図書室が良書を備えているよう注意しなければなりませんし、時間割は、修道女たちが霊的読書のため、また養成のために毎日時間を取ることができるようであればなりません。

けれども、「学識」は目的そのものではなく、イエスキリストをよりよく知り、もっと愛するための手段なのです。テレジアは、たくさん勉強し、多くの知識を持つことによって自分は優れていると思っている人々に、かすかな傲慢が生じてくることを知っています。すでに触れたように、彼女は、修道女は人との交わりにおいて単純でなければならないと主張しています。話す時に気取って話してはならないし、言葉や概念の問題で面倒な議論に首を突っ込んではいけません。跣足カルメル会修道女の間では、文化（教養）は親しみやすさや自然さと矛盾してはならないのです。

テレジアは、修道女が各々、自分の能力や限界を知り、受け入れるよう招きます。これが、修道女たちが仲直りし、平和の内に生きることを可能にするからです。一方では、真の謙遜は、私たちが受け取った、決してうぬぼれることができない能力を認め、喜んで受け入れることを意味します。自分の賜物を蔑視することは、大きな害をもたらす誤った謙遜です。「ある種の謙遜に従ってはなりません。ある人々は、自分に与えられた賜物を認めないことが謙遜だと思っています。よく理解しましょう。ほんとうに、私たちには何の功德もないのに、神からそれらの賜物が与えられていることをよく理解しましょう。…私たちが大きな恵みを受けることができないと思うと、靈魂はおじけづきます」（自叙伝 10, 4-6）。

(P. 九里訳)

# いのちの言葉 3月

人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。

これこそ律法と預言者である。

(マタイ 7・12)

人生の中で決断しなければならない時、自分が選んだ道に確証を与えてくれるような何か gewünscht と思ったことはありませんか？ もし、クリスチャンなら、この瞬間も神の子どもとして生きるために、一番大切な福音のメッセージは何だろう、神のみ心をどうやって知ることができるだろうと、思いめぐねたこともあるでしょう。

そんな私たちの問いにイエスは、明快に答えておられます。それが今月のみ言葉です。すぐに理解でき、実践できるみ言葉です。真に福音を生きる人とはどんな人であるかとマタイ福音書の「山上の説教」の中でイエスは語られますが、その話の最後を今月のみ言葉で締めくくっています。

現代に生きる私たちに必要なのは、豊かで深く、しかも簡潔なメッセージです。その意味で、このみ言葉は、どんな時にも心に留め、実践できる貴重なツイート(メッセージ)と言えるでしょう。

人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。これこそ律法と預言者である。

相手の立場に立ってみなさい、そうすれば相手が何を望んでいるのか分かったら、イエスはおっしゃいます。それはちょうど、私たちへの愛ゆえにイエスご自身、私たちとまったく同じ一人の人間になられたようにです。

ところで、私たちは自分の両親や子どもたち、又は、職場の同僚、国の指導者、霊的指導者から何を望んでいるのでしょうか。受け入れてもらうこと、話を聞いてもらうこと、経済的に助けてもらうこと、さらに誠実さや許し、励まし、忍耐、助言、教育などではないでしょうか。

このような心の中の望みや姿勢に具体的な行動が伴うとき、そこに神の律法とあらゆる精神生活の豊かさが実現される、とイエスはおっしゃいます。

今月のみ言葉は「黄金律」とも呼ばれるものです。人類の長い歴史の歩みを通してさまざまな文化、宗教、伝統の中で培われてきた普遍的な教え(※1)です。それだけではなく、真の人間性にあるすべての価値観の基盤をなすものです。「黄金律」が生かされる時、公正で連帯ある人間関係が個人、そして、社会の中に築かれ、平和的な共存が実現します。

人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。これこそ律法と預言者である。



今月のみ言葉は、相手のために何が出来るか工夫し、相手に対してもっと寛大になれるよう助けてくれます。そして、イエスがなさったように誰をも助け、あまり親近感を感じない人に対しても、私たちが人々の間の「架け橋」となるよう促してくれます。私たちの信仰が、信ずるに値するものだと周りの人に証しするためには何よりも、自分から一歩外に出る勇気が求められるでしょう。

キアラ・ルービックは語ります。「このように過ごす一日は、一生にも値しません。今まで経験したことのない喜びに心は満たされ、神が、いつも身近にいてくださるのを感じます。愛する人と共に神はおられるからです。時にはくじけそうになり、もう止めようと思うこともあるでしょう。でも、止めないで、勇気をだして下さい！神は必要な恵みをあなたに与えて下さいます。ですからいつも、やり直しましょう。そのうちに、少しずつ少しずつ、周りが変わっていくのにあなたは気づくでしょう。福音は、この上なく魅力的な生活を私たちにもたらし、世に光を灯し、人生に生きる意味を与えます。福音にこそ、あらゆる問題を解くカギがあると悟るでしょう。このような特別な体験をどうして自分の友人、親戚、出会うすべての人に伝えずにおれるのでしょうか！希望が湧いてきます。」

人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。これこそ律法と預言者である。

ラミーロは、ベテラン社員です。ある日、新しい人が数人入社すると知りました。彼はふと「自分ならどんな風に迎えられたいか、どんな職場なら好きになるだろう？」と考え、すぐに、他の同僚にも声をかけてデスクを綺麗に配置し、みんなで力を合わせて新しく来る人たちが温かく、明るい感じの良い職場だと感じてくれるよう準備しました。

レティツィア・マグリ

※1 例：「自分にして欲しくないことを他の人にするな。ここにモーゼ5書の全てがある。」(ユダヤ教) 「自分にしてほしいと望むことを兄弟のために望まないならイスラム教徒とは言えない」(イスラム教) 「自分に害となるようなことを、他の人に行うな」(仏教)

キアラ・ルービック

生誕 100 周年を祝うミサのお知らせ

3月28日(土)

13:00 受付 13:30 ミサ

聖イグナチオ教会・マリア聖堂

ミサ司式 教皇大使 ジョセフ・チェノットゥ大司教

\* ミサ後、岐部ホール3F306号室にて懇親会があります。

連絡先: フォコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

先月号に、NHKの番組で知り人間関係のそのあり方にショックを受けて心とめた「レンタルなんもしない人」のことを書き記したのですが、その後興味惹かれるままに自分でできる範囲のリサーチを試み、今またまた重なるショックを感じているところです。

「レンタルなんもしない人」は、NHKが取り上げるずっと以前からツイッターの世界では大変な有名人で、他のテレビ局でも特集番組が組まれたりしていたようです。その上なんと「レンタルなんもしない人」の著書が数冊出版されているのに驚き、とりあえずその中の「レンタルなんもしない人のなんもしなかった話」というのを読んでみました。

「僕を貸し出します 簡単な受け答えと必要な飲食以外はなんもできかねます 交通費とかかった実費はもらいます」(しかし、何ということ今現在は交通費、実費のほかに、一件につき一万円のレンタル料を貰い受けます ということが付け加わっていました。 咄然としたことでした。)というサービスを始めてからの約半年間の出来事をほぼ時系列で紹介しているもので、「レンタルなんもしない人」さんのツイートを編集者(晶文社)さんが文章起こしたものです。(245頁もあります) 本としては過不足なく読みやすく、新鮮な趣向に富み、なかなか面白かったことは自分でもちょっと意外でした。それでも今胸の内にあるこの読後のショックをどのように見極め、どのように言い表したらよいのかと思ひあぐね、手をこまねいているところです。

私の知らない間に世の中は、それから人間は、こんなにも変化、進化していたとは。それは火星に何かを飛ばすとか、宇宙の構造、深海の生物の生態を解明するとか、そういったものとは別種の驚きなのですが、ほんとうにどう言い表せばよいのでしょうか。

自分の要望を満たすために、ツイッターを用いてごく手軽に一人の人間を調達するといった人と人との関わりに驚きを覚え、嘆き哀しみのような気持ちを前号に記しました。それは私が見知っているたとえば水道工事とか、引っ越しとか、棚を作ってもらおうといった便利屋さんのものではなく、全くその反対で実務はいっさいせずただ横に存在するだけという業務なのですが、本を読み進めるなかで、私は自分の或る深い誤解に気づき始めたのでした。誤解というよりもっと切実な、ああ私は知らなかったという嘆息でしょうか。

「なんもしない人」のこと、その営みを知ったとき、最初にとっさに私の内には巫山戯るなという気持ちが生じたと思うのですが、本を読んでみると登場

する人たちは、べつにふざけているわけではなさそうで、どうなのでしょう  
か、この日々を生きる暮らしの中に言ってみれば遊戯性というのかゲーム感覚  
というのか、或る軽みがあるように見受けました。しかも意識してつくりだ  
しているのではなく、人々の内に常としてすでにあるのだと思われます。 曰  
く言い難いのですが、余裕があるから余裕がないというような、余裕がない  
から余裕があるというような感じといえよいでしょう。

「なんもしない人」さんは「なんもしない」のほかにもビットコイン（私はな  
んもわかりませんが）で儲けたとか、ボーリングをすればトップの成績、オセ  
ロやテレビゲームでも圧勝するなど何でもする人できる人でもありました。  
知的にも優れ、良識、常識もあり、人格的にも大変バランスが取れている人と、  
本を読んで私は感じたことでした。「なんもしない」とは自分特有のかろ  
うじて見出したポジションなので人は真似ようとしてもできないと、ご本人が  
言っています。

さまざまな要望を依頼する顧客さんは10代から70代と幅広く、圧倒的に女  
性が多くリピーターも多いとか。「友達なら大丈夫な関係になるまで何年も  
の年数とその分のお金もかかるけど、『なんもしない人』を呼べばその時間すっ  
飛ばせる」とか。とにかくありとあらゆる事柄の需要があり、供給もとても  
うまくいっていて、それだからこそ私は呆然として時代遅れの我が身のほどを  
深く思い知ることとなったのです。この追いつきようもない時代性の差と  
は、あまりの驚嘆ゆえに見知らぬ未来への希望のように今思ってしまうのです。  
思いもよらぬ大ききで私を捉えた「レンタルなんもしない人」でしたが、まだ  
まだ心の内にあるものを見出し掴んではいけないので、いずれまたここに取り上  
げることによって神さまの内に問い、聴き、探し見極めたいと思っています。

本の中の山ほどある依頼事項の中から・・・。

\*離婚届の提出に同行してほしいという依頼「初めまして（現姓）です」と  
挨拶されたあと「最後にお疲れ様でした（旧姓）さんと言ってもらえますか」  
と頼まれ、その通りにして別れた。 \*長時間のピアノの練習は気が狂いそう  
になり音がゲシュタルト崩壊するので傍にいてほしいと音大の練習室に長時間。  
\*生い立ちを隠して生きてきた。友人やカウンセラーに話すには勇気がいる。  
フツに聞いてくださると助かります。 \*野球観戦への同行依頼だったが、  
その前のカフェで数学の話してくださいと言われカージョイド（何なのか私は  
わかりません）の話をし、野球なんてどうでもいいということになり、請われ  
て長時間一方的に話し看板を放棄した形になったが至福の時間だった。

（上野毛教会信徒）

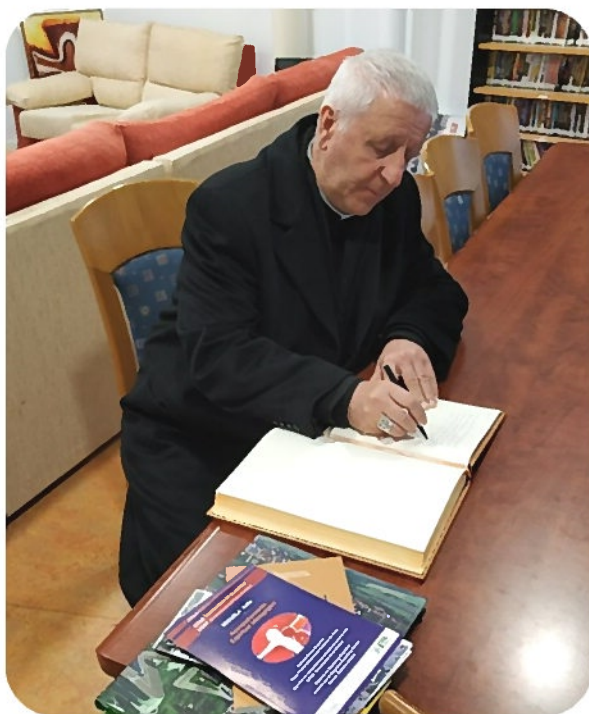
## 跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>  
の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2020年2月14日

### ローマ教皇庁の教育省長官が国際神秘神学大学 (CITES) を訪問



今年1月23日にローマ教皇庁の教育省長官、ジュセッペ ベルサルディ枢機卿はアヴィラの国際神秘神学大学 (CITES) を訪問されました。

この訪問にはCITE当局の関係者、並びに教皇庁ヨハネ・パウロ二世神学院の法律・国際関係学部代表 ハビエル ベルダ イニエスタ教授と、ベルサルディ枢機卿が今年1月22日水曜日にマドリッドに開設された教皇庁ヨハネ・パウロ二世神学院の新しい学部の部長マヌエル アローバ教授が同行しました。

CITES訪問の間、枢機卿は新しい宣教の壮大な教会プロジェクトを鍛造し支持していくことについて、このCITESセンターの重要性を述べられました。彼は、またイエスの聖テレサと十字架の聖ヨハネの神秘神学を高く評価され、CITES共同体がこの働きを維持し続けて、信仰生活と必要な文化的・学際的、諸宗教的な対話を推し進めるよう奨励されました。

ここCITESは、イエスの聖テレサと聖女の主に結ばれた神秘神学の文献が豊富にあり、人々を惹きつけるに足るモデルの地となっています。

(小宮山延子 訳)

# カルメル誌 新刊案内



## 2019年 冬号 No.375

\*\*\*《祈りを学びたい人のために》\*\*\*\*\*  
 信仰生活(再)入門 テレーズと共に歩む 幼子の道(8)  
 —祈りを始めるために(4)主の祈り(後編) 片山はるひ  
 パウロの祈りに学ぶ(4)神の力の場である人間の弱さ 九里 彰  
 —コリントの教会への第二の手紙 田畑邦治  
 エディット・シュタインが教える祈り(III) 須沢かおり  
 現代社会において 祈りの人となるには(4) 九里 彰  
 \*\*\*\*\*  
 風に吹かれて(22)—虫がよすぎる 原 造  
 キリストに伴われて季節を巡る(8) 伊従信子  
 教会の「もてなし」の使命—国籍を超えた神の国をめざして  
 ポール・フェルナンデス  
 カルメル会の会則に見る  
 アシェシスと修道生活(8) 九里 彰  
 霊的研究会講義録(6)—聖書・祈り・愛について  
 奥村一郎

## 2019年 特集号

「家庭の危機 教会の危機」  
 —「愛のよろこび」に光を求めて—  
 神の愛の共同体—家庭の靈性とカルメル 九里 彰  
 いっしょにいのちを育みたいなあ 小林由加  
 —家庭と教育の現場から  
 創り創られるもの—結婚・家庭の自然と恩寵 田畑邦治  
 キリスト信者の結婚と家庭 松田浩一  
 —靈的・司牧的同伴からの—考察  
 聖家族を要として家庭と教会を見つめ直す 大瀬高司  
 —危機を好機に

### ご案内

1冊 520円 A5サイズ 50~70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

- 送付ご希望の方は、700円【520円 (+送料 180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい
- 年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬+特集号 計 3,500円)を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

- お問い合わせは、事務担当:今泉ヒサエ宛に上野毛修道院へ手紙かファックスで。  
 〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax:03-3704-1764  
 又は E-mail: hisa\_ima520@ezweb.ne.jp



## 書籍案内

### 生きる意味

#### ●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

#### ——— 目次 ———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禪
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

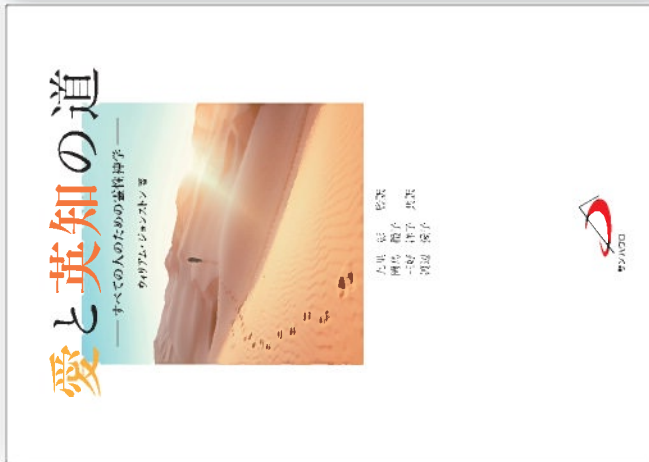
ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

# 愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳  
岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

## 第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 福音 Ⅰ
- 第2章 福音 Ⅱ
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

## 第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なエネルギ
- 第10章 英知と（愛）

## 第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 〈愛のうちに〉
- 第15章 花嫁と花婿
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じる。また、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。



# 2020年のご案内

年間テーマ 手をとりあい、白ら歩み出す



大瀬高司 師

好評の2019年の連載「カトリックの信仰を生きた愛国者・ステファノ山本信次郎」に引き続き大瀬高司神父の新連載が始まります。

●近代日本の歩みとカトリック教会  
——山本信次郎研究ノートより  
大瀬高司（カルメル修道会司祭）

山本信次郎研究で得られた成果から、近代日本のカトリック教会での出来事や人物を取り上げ、これまであまり知られていないエピソードを中心に紹介します。

## その他の新連載

- アンジェラスの鐘／加藤美紀（教育学者）
- 知恵ある者たちのアフォリズム／加藤久美子（聖書学者）
- かたわらに、今、たたずんで／大野高志（日本基督教団牧師）
- 聖歌と賛歌——民衆霊性と多様性から  
杉本ゆり（中世教会音楽研究者）
- 新米神父の開拓奮闘記／大西勇史（広島教区司祭）
- いのちの交わりの場——エコロジカルな暮らしのために  
吉川まみ（環境学者）

## 継続連載

- 典札暦と季節の味わい（応用編）  
柳谷晃子（食文化研究所主宰）



## 月刊『福音宣教』お申し込み方法

◇郵便局に備えつけの振替用紙にて年間定期購読料を下記口座までお振り込みください。ご入金確認後、発送いたします。

- 口座番号：00170-2-84745
- 加入者名：オリエンズ宗教研究所
- ご購読料：7500円（税・送料込）
- 備考欄：「福音宣教～月号から」とご希望の開始月をご明記ください。ご指定がなければ、最新号からお送りいたします。

年間定期購読料（年11回、8・9月合併号）7500円（税・送料込）一部定価600円＋税

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-28-5  
Tel 03-3322-7601 Fax 03-3325-5322 <https://www.oriens.or.jp/>





福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて  
十字架の聖ヨハネの  
**ひかりの道をゆく**

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】 **287**

**第2版  
好評発売中!**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ  
を生き、体験し、確認した教えなのです。  
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの  
教えは現代の人々にも十分適応されます。  
また、神の命を伝え、実践的手段を示して  
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の  
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる  
**いのりの道**

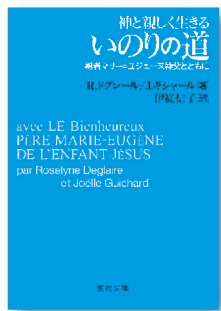
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

**R. ドブレール / J. ギシャル 著**

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】 **246**

定価**540**円(税込) 209頁



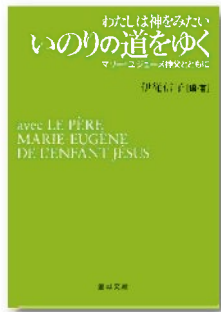
わたしは神をみたい  
**いのりの道をゆく**

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

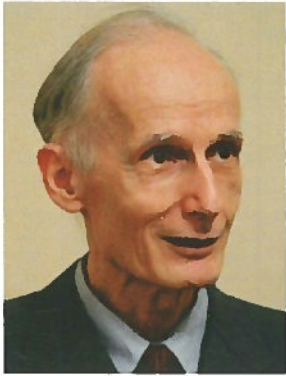
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】 **268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

**聖母の騎士社** ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1  
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



## クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	<b>I 超越体験 一宗教論</b>	定価(本体+税)
	宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	9784862852151 3,800 円+税
第2巻	<b>II 真理と神秘 一聖書の黙想</b>	
	日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	<b>III 信仰と幸い 一キリスト教の本質</b>	
	主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	<b>IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論</b>	
	古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	<b>V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践</b>	
	信仰との関わり方の薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

### ●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

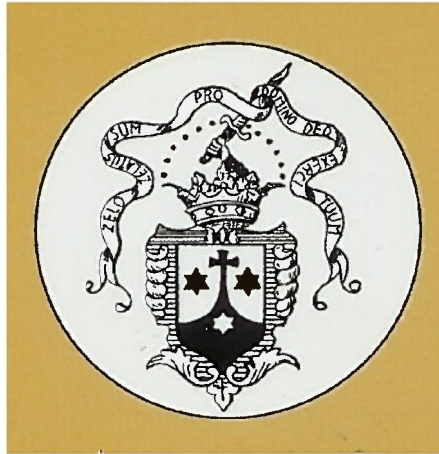
1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

# カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

**Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum**

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）

# 2020年・カルメル会四旬節講話シリーズ

場所：カトリック上野毛教会聖堂（東急大井町線上野毛駅下車7分）

日時：下記の各日曜日午後2時30分開始（講話と主日のミサ）

\* 入場無料



\* 共通テーマ

すべてのいのちを守るためーフランシスコ教皇のメッセージ

~~3月1日 松田浩 神父（カルメル修道会） 中止~~

~~神の愛といのちの福音を次世代に~~

~~3月8日 丸尾 彰神父（カルメル修道会） 中止~~

~~フランシスコ教皇の説く「平和への道」~~

3月15日 今泉 健神父（カルメル修道会）

司牧者のかがみ教皇フランシスコ

3月22日 大瀬高司神父（カルメル修道会）

教皇フランシスコならではの視点と光

【寄留者の尊厳】

3月29日 中川博道神父（カルメル修道会）

キリストは生きている

\*\*\*\*\*

カルメル会上野毛修道院

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25 TEL03-3704-2171

# カルメル会聖人に学ぶ黙想会

## 一日黙想会

祈りとの困難、アビラの聖テレジア

完徳の道 :第 23 章～26 章に学びましょう。

人間は、生きてると、順境の時もあれば逆境の時もあります。困難な状況に陥った時に神を信頼してお祈りすることで不思議と状況が開いていくことがあります。この困難を乗り越えるためにアビラの聖テレジアは、完徳の道を通して私たちに道を示して下さいます。そんな中でも恐れることなく、神の力に信頼して道を歩くことができますよう祈りの時を過ごしましょう。

\*\*\*\*\*:\*\*\*\*\*

日時: 2020年3月25日(水曜日)10時～16時

場所: 上野毛カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

指導: ジョニー神父 (男子カルメル修道会)

会費: 3500円(昼食付)



\*お問合せ・お申込み

〒158-0093東京都世田谷区上野毛2014-25

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

Tel.03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

E-mail mokusou@carmel-monastery.jp



## 東京 上野毛 霊性センター

**黙想企画 \*\*上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) \*\***

祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

### 【クリスマス】

12月24日(木)～25日(金) 朝食 《講話なし、夕食なし》

【聖週間】 聖木曜日から復活祭まで通して参加できます。またどの曜日からでも参加可能です。

4月9日(木) 夕食～4月12日(日) 朝食 《講話なし、各食事つき》

聖書深読黙想会 (土曜日18時～日曜日16時)

5月30日(土)～31日(日) カルメル会士

7月 4日(土)～ 5日(日)

10月31日(土)～11月1日(日)

2021年 2月27日(土)～28日(日)

一日黙想会：(水曜日10時～16時・昼食付) カルメル会士

《 カルメル会聖人に学ぶ黙想会 》

3月25日 ジョニー神父

4月15日(水) 5月20日(水) 6月17日(水) 7月22日(水)

9月16日(水) 10月21日(水) 11月18日(水) 12月16日(水)

2021年 1月20日(水) 2月17日(水) 3月17日(水)

一泊黙想会 (土曜日16時～日曜日16時)

3月14日～15日 志村武神父

4月18日(土)～19日(日) 今泉健神父

7月11日(土)～12日(日) 今泉健神父

10月24日(土)～25日(日) 今泉健神父

2021年

1月23日(土)～24日(日) 今泉健神父

3月13日(土)～14日(日) 今泉健神父

奉獻生活者のための黙想会（初日17時～最終日朝食） カルメル会士  
8月 1日(土)～8月10日(月)  
8月16日(日)～8月25日(火)  
12月27日(日)～1月 5日(火)

青年黙想会(男女) 35歳位まで(初日16時～翌日16時) カルメル会士  
5月15日(金)～17日(日)  
2021年 3月26日(金)～28日(日)

召命黙想会(男女) 40歳まで(初日16時～最終日16時) カルメル会士  
11月 6日(金)～ 8日(日)

特別黙想会(初日20時～最終日16時) Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)  
11月13日(金)～15日(日)



- \* 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- \* こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- \* 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: [mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>

# 一泊黙想会

—カルメル会聖テレジア修道院(黙想)(東京、上野毛)—

荒れ野にて…信仰の成熟、死から命へ  
(民数記、申命記より)



指導：志村 武神父

日時：2020年3月14日(土)～15日(日) 16時開始～翌日16時まで

会費：6,500円

\*お問合せ・お申込み

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

TEL. 03-5706-7355

FAX. 03-3704-1789

Eメール:mokusou@carmel-monastery.jp





## 宇治カルメル会 黙想会案内

2020年4月～8月頃まで黙想の家の改修工事を行うため、その期間、宇治カルメル会での黙想会は行われません。それ以降については、決まり次第、お知らせ致します。

【聖書深読黙想会】(午前10時～午後4時)

3月14日(土) 中川博道神父

【水曜の黙想】(午前10時～午後4時)

~~3月18日(水) まだ眠っているのか? Sr.ロザ~~ 中止

【土曜の黙想】(午後1時～午後6時)

3月7日(土) 苦しみの中イエス 中川博道神父

【四旬節の黙想】(午後5時～午後4時)

3月7日(土)～8日(日) 「荒野での試み」 中川博道神父 → 志村武神父 変更

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願い致します。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)  
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457  
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp  
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

## 金沢黙想案内

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

## 土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と  
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788

## 諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター  
ノートルダム・ド・ヴィ  
サダナ瞑想  
慈しみ深き会  
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。  
記載には注意を期しておりますが、  
詳細は各問い合わせにご照会下さい。  
よろしくお願い致します。

## 真命山 2020年 — 祈りの集いのご案内

### 「祈り」

最高の神秘体験として御聖体の秘跡を戴いてキリストと出会う

毎月第2木曜日（10:00～15:00）

指導者 フランコ神父

- 1月 9日 「キリストに結ばれる」：入信の秘跡の完成  
2月13日 「キリストに生かされて生きる」：永遠のいのちの糧をいただく  
3月12日 「キリストとともに死ぬ」：ほふられた小羊の生け贄に倣う  
4月 9日 「過越の神秘の体験」：復活されたキリストと出会う  
5月14日 「聖霊に生かされて歩む」：聖霊降臨の恵みの中で生きる  
6月11日 「キリストの現存の神秘」：「みことば」は私たちの間に宿られる  
7月 9日 「一致のしるし、愛のきずな」御聖体から生まれる教会
- \* \* \*
- 9月10日 「御聖体によるいろいろな奇跡」：ご聖体に対する信心の歴史  
10月 8日 「キリストの現存」：信仰のしるしである御聖櫃の美術  
11月12日 「死に勝たれた救い主の勝利」：終末論の宴  
12月10日 「私たちの間に生まれるキリスト」：御ことばは「肉」となられた



申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

前晚17:00まで可

www.shinmeizan.com

# 講話と祈りのつどい

【2020年3月7日(土)】

聖三位の交わりのうちに



テキストは『いのりの道』(R.ドグレール、J.ギシヤール共著、伊従 信子訳 ドン・ボスコ社)です。会場でも購入できます。

講話・祈り・分かち合い 2時～午後5時30分

担当 中山真里

場 所：ノートルダム・ド・ヴィ (東京・上石神井)



参加費：200円

\*\*\*\*\*

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail [notredamedevie.japan@gmail.com](mailto:notredamedevie.japan@gmail.com)

## サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

<https://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
入門A	4/5(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F(四ツ谷)	来間(くるま) 裕美子※ TEL 090-5325-2518 045-577-0740 sadhana12378@yahoo. co.jp
フォローアップ	4/19(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F(四ツ谷)	同上
リピータの会 @那須	4/24(金)14:00- 26(日)14:00	Fr植栗	ベタニア修道女会 聖ヨゼフ山の家	同上
ダイアリー	5/2(土)17:30- 6(水)16:00	Fr植栗	上石神井無原罪聖 母修道院	同上
サダナI	5/21(木)17:30- 24(日)16:00	Fr植栗	カルメル修道会上野 毛修道院 黙想の家 (上野毛)	同上

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518(来間)までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax : 042-325-7554

### ◆サダナI

サダナIにおいて、呼吸や身体感覚を鋭敏に感じることと心の静まりを入り口として、深みに進みます。

### ◆入門A.B.C

本来は、宿泊して営む「サダナI」を内容を分割して体験していただくプログラムです。

もし可能であれば是非、「サダナI」への宿泊参加していただきたいのですが、諸般の事情でどうしてもそれが出来ないという方のためのプログラムです。

### ◆サダナII

サダナIの土台を生かしながら、さらに奥へ、高みへと向かいます。

### ◆ダイアリー

沈黙のうちに自分の生涯を観察し、神からいただいた宝を見出そうとするものです。



## 念祷の集い

～沈黙の内に神を求めて～

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室  
12月のみマリア聖堂（ミサあり）

時間：以下の木曜日  
14：00～16：00（講話と念祷）

主催：慈しみ深き会



くのり

指導：九里 彰 神父（カルメル修道会）

【2020年】

ウィリアム・ジョンストン著『愛と英知の道—すべての人のための霊性神学—』  
(サン・パウロ)を少しずつ味わいながら、共に祈ってゆきましょう。

1月23日—序論— 終了

3月26日 第一部 キリスト教の伝統  
第1章 背景（1）

5月28日 第2章 背景（2）

7月23日 第3章 理性対神秘主義

9月24日 第4章 神秘主義と愛

11月19日 第5章 東方のキリスト教

12月17日 第6章 愛を通して生まれる英知

\*参加費無料（献金歓迎）

\*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

## ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院 (2020年)

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1  
Tel : 077-579-7580  
Fax : 077-579-3804  
E-メール : karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。  
琵琶湖の方へ徒歩 約 13分

◎ 黙 想

### A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 5月10日(日)～ 5月18日(月)
- ② 8月14日(金)～ 8月22日(土)
- ③ 10月 4日(日)～ 10月12日(月)
- ④ 12月27日(日)～2021年1月4日(月)

### B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2月 7日(金)～ 2月9日(日)
- ② 2月28日(金)～ 3月1日(日)
- ③ 3月27日(金)～ 3月29日(日)
- ④ 6月12日(金)～ 6月14日(日)
- ⑤ 7月17日(金)～ 7月19日(日)
- ⑥ 9月18日(金)～ 9月20日(日)
- ⑦ 11月13日(金)～11月15日(日)



C. 講話 黙想（奉献生活者のため）

6月22日（月）夕食 ～ 6月30日（火）昼食  
九里 彰 師（カルメル会）

- ◎ 対 象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。
- ◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他
- ◎ 申込み： 1) 氏名(カガカ) 2) 〒住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号)を書いて郵送、または、Faxで「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。

唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

8日間の黙想は 先着順 11名、週末3日間の黙想は先着2名 です。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。

D. 独身女子青年の集い

7月25日（土）～ 26日（日）  
9月12日（土）～13日（日）  
11月7日（土）～ 8日（日）

申込み：唐崎修道院 Sr. 桂川美代（Tel. 077-579-2884）

- E. その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。

（但し、上記の日程と8月1日～8月9日、9月1日～9月7日を除きます。）

# 『靈性センターニュース』

## \* 郵送お申込みのご案内 \*

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。  
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。  
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号は休刊）となり、  
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座  
へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184  
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、  
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。

また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。

その場合は、「献金」とご記入お願い致します。

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御藏山 39-12  
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」  
Tel:0774-32-7456  
Fax:0774-32-7457

[reisei@carmel-monastery.jp](mailto:reisei@carmel-monastery.jp)

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会  
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

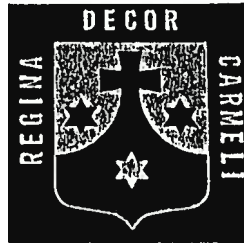
あとがき

今年も「灰の水曜日」から始まる四旬節が始まりました。現代の「エジプト」から、「乳と蜜の流れる土地」への脱出です。毎年、灰の水曜日を祝うたびに、青年期に恩師が語っておられた、「人生とは火葬場への待合室です」の言葉を味わい直します。人生において、何が過ぎ去るもので、何が変わらないものかを根本から問い直しながら、真実に生きることへの模索を教会は2000年余り毎年振り返りつづけてきました。

母聖テレジアのことばが響きます。

何ものにも心乱されず  
何をも恐れるな すべては過ぎ去る  
神のみ変わらず  
耐え忍ぶとき すべてをかちえる  
神に生きる人には 欠けるものはなし  
神のみにて足りる

「復活徹夜祭」を徹夜で行うことの意味は、「目覚めていること」への招きです。混迷を深める時代、「目覚めて」この時を過ごしたいと思います。



## ~~~~製本／発送のご協力お願い~~~~

「霊性センターニュース」の製本/発送を、2017年7月号より宇治修道院で行う事になりました。発送作業は梱包・宛名ラベル貼りと確認チェック等です。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加も大歓迎です。

次回の製本/発送日 **3月27日(金) 午前10時頃から**

**宇治修道院信徒会館**

※ご協力いただける方は、製本/発送日をご確認の上、お越しく下さい。

霊性センター事務局 ☎0774-32-7456